

## R4.1.12 教育委員会会議資料（地域学校協働課（放課後事業担当））

子供の居場所づくり事業の検証結果と今後に向けた方向性について

### 1 報告概要

令和2年12月22日の所管事務報告では、報告時点における子供の居場所づくり事業の検討内容とその後の方向性についてご報告し、コーディネーター常駐型（以下、「CN常駐型」という。）の再評価や放課後キッズルーム事業（以下、「放課後キッズ」という。）の改良型の試行等についてご説明いたしました。

前回の所管事務報告から1年余りが経過し、この間に検証した内容や、令和4年度の実施内容等についてご報告いたします。

### 2 事業の経過（5頁 資料「子供の居場所づくり事業 実施校推移」参照）

- ・平成27年度より子供の居場所づくり事業（CN常駐型）を実施
- ・令和元年度、留守家庭児童育成センター（以下、「育成センター」という。）の待機児童対策にもつながる事業として放課後キッズを実施
  - ☞ 新たな居場所の創設と育成センターの増設抑制を期待
- ・既存のCN常駐型の利点や、放課後キッズによる育成センターの増設抑制効果をより高める運用方法について、さらに検討する必要があること等から、令和2～3年度に事業の検証を行うこととした
- ・CN常駐型を再評価し、一律に放課後キッズに移行していく方針を改めるとともに、放課後キッズの改良型の実施を報告（R2.12.22 所管事務報告）

### 3. 放課後キッズの検証について

#### (1) 放課後キッズの登録者数・参加者数について

令和3年度は、放課後キッズを5校で実施しました。各校の登録者数や、参加者数につきましては、表1、表2のとおりです。

どちらも、前年度比で、やや増加しています。

表1：放課後キッズ登録者数

令和3年12月20日現在

学年	神原小	甲陽園小	平木小	高木北小	南甲子園小	5校計	学年毎の割合
1年	42	88	51	62	92	335	25.1%
2年	47	67	42	48	91	295	22.1%
3年	30	64	44	57	68	263	19.7%
4年	50	67	27	36	72	252	18.9%
5年	29	25	21	19	50	144	10.8%
6年	6	5	14	7	12	44	3.3%
合計	204	316	199	229	385	1,333	100.0%
(R3 児童数)	479	894	415	620	909	3,317	
児童数に対する割合	42.6%	35.3%	48.0%	36.9%	42.4%	40.2%	

表2：放課後キッズ参加者数

	神原小学校			甲陽園小学校			平木小学校			高木北小学校			南甲子園小学校		
	実施日数	参加者数(合計)	参加者数(一日平均)	実施日数	参加者数(合計)	参加者数(一日平均)	実施日数	参加者数(合計)	参加者数(一日平均)	実施日数	参加者数(合計)	参加者数(一日平均)	実施日数	参加者数(合計)	参加者数(一日平均)
4月	21	588	28	17	622	37	21	634	30	21	495	24	15	813	54
5月	18	524	29	16	690	43	17	624	37	17	502	30	18	974	54
6月	22	775	35	22	1,226	56	22	966	44	22	765	35	22	1,440	65
7月	17	570	34	18	873	49	18	794	44	18	616	34	18	1,280	71
8月	18	405	23	18	475	26	18	474	26	18	363	20	18	856	48
9月	20	404	20	20	862	43	20	630	32	20	672	34	20	1,109	55
10月	21	501	24	20	854	43	21	729	35	21	744	35	21	1,167	56
11月	20	520	26	19	841	44	20	719	36	20	754	38	20	1,126	56
合計	157	4,287	27	150	6,443	43	157	5,570	35	157	4,911	31	152	8,765	57

(2) 放課後キッズの効果について

実施した5校について、育成センターの辞退数や、育成センターの利用申請児童数に関する推計と実績は以下のとおりでした。

表3：放課後キッズ利用を理由とする育成センター辞退数

育成センター	辞退数			取り上げ数 R3年度	合計
	R元年度	R2年度	R3年度		
高木北	3	2	5	0	10
平木	2	4	2	2	10
神原		4	0	2	6
甲陽園		7	2	2	11
南甲子園		14	3	0	17
合計	5	31	12	6	54

表4：育成センターの利用申請児童数に関する推計と実績

育成センター	利用申請児童数	R元年度	R2年度	R3年度
		推計	73	81
R元年度開始	高木北	実績	73	67
		差	0	14
		平木	推計	74
実績	70		67	
差	4		6	
R2年度開始	神原	推計	59	77
		実績	71	81
		差	-12	-4
	甲陽園	推計	124	145
		実績	143	145
		差	-19	0
	南甲子園	推計	119	120
		実績	133	122
		差	-14	-2
(推計-実績)合計		-41	14	29

表3のとおり、全ての学校で一定の効果は出ております。

また、表4より南甲子園小学校や平木小学校では、実績が推計を10人以上下回るといった効果も確認できました。しかし、事業開始当初に期待していました育成センターの増設を抑制するまでの効果は、現時点では得られていません。

(3) 改良型の実施と効果の検証について

◆改良型の実施

放課後キッズが、より効果的に育成センターの待機児童対策に寄与できるよう、令和3年度から神原小学校と高木北小学校で以下のとおり仕様を見直しました。

- ・4月1日開所（多くは4月中旬開所）
- ・集団下校の実施（神原小学校のみ）

- ・長期休業期間中の8時開始（他は8時30分開始）
- ・育成センターと放課後キッズの登録を選択制に

#### ◆効果の検証

表1～表4から、改良型を実施しなかった平木小学校、甲陽園小学校、南甲子園小学校の状況と比較しましても大きな違いはなく、改良型の実施による効果は確認できませんでした。

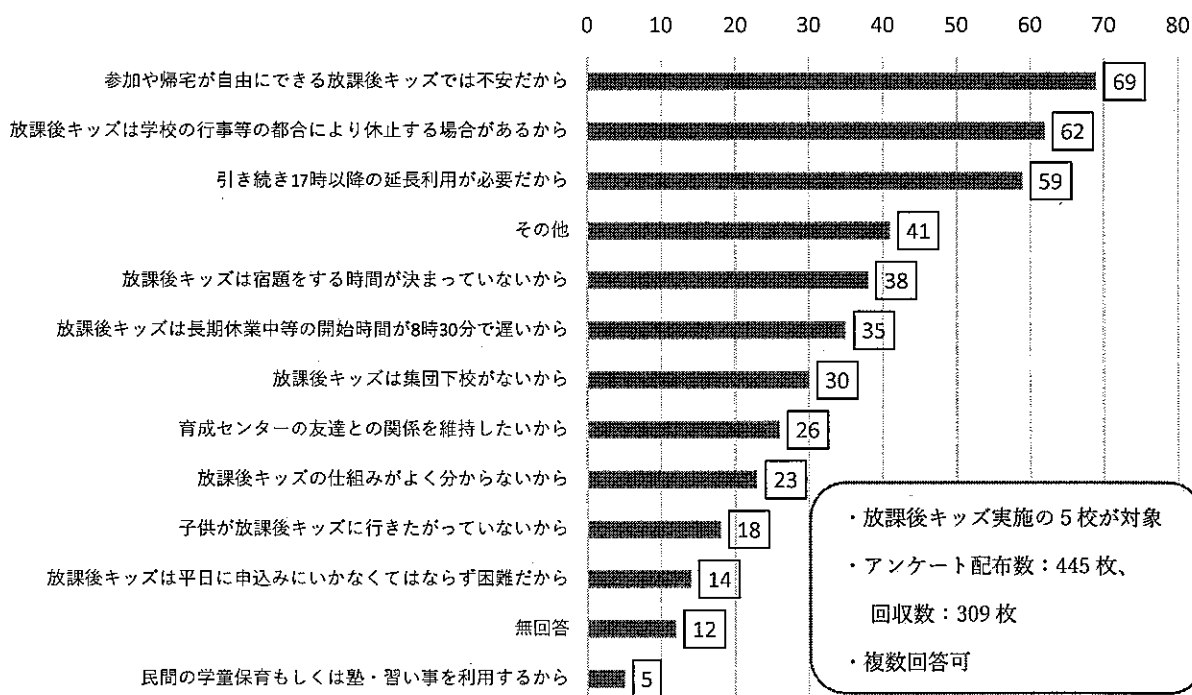
改良型は、仕様を育成センターに近づけていますが、現時点では開所日や開所時間の変更だけではほとんど効果がないと言えます。

#### (4) アンケートの実施と分析

##### ◆アンケートの実施

育成センターを利用している児童の保護者にアンケートを実施し、「育成センターを退所し、放課後キッズに参加する考えはない」と回答された方に、その理由をお聞きしました。

表5：放課後キッズに移らない理由



##### ◆分析結果

- ・長期休業中の開始時間や、集団下校がない点への指摘もありますが、これらについて、改良型で効果が表れていません。
- ・上位にある「参加や帰宅が自由にできる放課後キッズでは不安だから」や「放課後キッズは宿題をする時間が決まっていないから」につきましては、事業の本質的な問題であり、自由で自主的な居場所づくりを目指す放課後キッズの事業趣旨と育成センター利用者のニーズとの間にずれがあります。
- ☞ 待機児童対策の効果を高めるためには、放課後キッズの事業趣旨を維持しつつも、育成センター利用者のニーズも取り込める仕組みづくりの検討が必要であります。

#### 4. 今後に向けた方向性

##### (1) 全校実施に向けて

市職員であるCNを学校に配置して実施する直営のCN常駐型は、放課後まではCNが通常学級や特別支援学校の授業補助等の学校支援を行っており、児童の特性を把握する中で、きめ細かな見守りが期待できます。

また、見守りサポーターは主に地域の方々であり、CNとともに地域の方々が地域の子供たちを見守ることになり、地域全体で子供の成長を支えることにもつながります。

活動時間は、放課後キッズに比べ短いですが、運用上の強制ではなく、学校や保護者、地域の方々が放課後の過ごし方についても協議される中で、学校や地域の実情に合わせて活動時間を変更することは可能です。

今後も、このCN常駐型を中心に、毎年数校ずつ実施校を拡充してまいります。

令和4年度は、CN常駐型を5校程度で導入する予定です。

##### (2) 放課後キッズの検証について

新型コロナ禍で十分な事業実施ができていないこともあり、引き続き育成センターの待機児童対策としての効果を確認するため検証を行い、最終的な結論を出す予定です。放課後キッズのみ、又は民設の放課後児童クラブとの併用で、育成センターの増設抑制に寄与することを目指してまいります。

令和4年度は、すでに実施している5校に加え、特に多くの待機児童の発生が予測される香榎園小学校でも放課後キッズを実施します。同校における育成センターの指定管理者と放課後キッズの受託事業者が同一の事業者であるメリットを活かし、少しでも多くの児童が放課後キッズに参加してもらえるよう保護者への働きかけをしてもらう等、より放課後キッズを選択してもらうような仕組みづくりを検討します。

また、アンケート結果より得られた自由な居場所に対する保護者の不安といった点につきまして、放課後キッズの事業趣旨を損なわない範囲での個別具体的な方法を検討します。

改良型につきましては、引き続き2校で実施しますが、放課後キッズと育成センターの登録の選択制につきましては、現時点での改良型の効果や、アンケート結果を踏まえ、令和4年度は選択制とせず、従来通り両方に登録できるようにします。

##### (3) 事業の名称について

本事業は、子供たちがのびのびと過ごせる居場所をつくるために「子供の居場所づくり事業」という名称にいたしました。が、国や地方公共団体等が「居場所づくり」に関する事業を推進する場合、貧困対策等の福祉的な意味合いが含まれることが多く、事業の名称が本来の事業趣旨を十分に伝えできていません。

全校実施に向けて事業を拡充する中、令和4年度からは、一事業形態であり、児童や保護者にも定着しつつある「放課後キッズルーム事業」（愛称：放課後キッズ）を本事業の名称とした上で、周知を図り事業を推進していくこととします。

なお、市職員であるCNを学校に配置して実施する事業形態は「直営型」、事業者への委託により実施する形態は「委託型」と呼ぶことといたします。

資料

子供の居場所づくり事業 実施校推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
CN 常駐型	安井	安井	安井	安井	安井	安井	安井	安井
	甲東	甲東	甲東	甲東	甲東	甲東	甲東	甲東
	小松	小松	小松	小松	小松	小松	小松	小松
		夙川	夙川	夙川	夙川	夙川	夙川	夙川
		北夙川	北夙川	北夙川	北夙川	北夙川	北夙川	北夙川
		深津	深津	深津	深津	深津	深津	深津
		瓦林	瓦林	瓦林	瓦林	瓦林	瓦林	瓦林
			上ヶ原南	上ヶ原南	上ヶ原南	上ヶ原南	上ヶ原南	上ヶ原南
			今津	今津	今津	今津	今津	今津
							西宮浜	西宮浜
							上ヶ原	上ヶ原
								〇〇
								〇〇
								〇〇
実施校数	3	7	9	9	9	9	11	16
ルーム型II		西宮浜	西宮浜	西宮浜	西宮浜	西宮浜		
		春風	春風	春風	春風	春風	春風	春風
実施校数	0	2	3	3	3	3	2	2
学校地域等 連携型		南甲子園	南甲子園	南甲子園	南甲子園			
		生瀬	生瀬	生瀬	生瀬	生瀬	生瀬	生瀬
		高須	高須					
		上ヶ原南						
		浜脇	浜脇	浜脇				
			苦楽園	苦楽園	苦楽園	苦楽園	苦楽園	苦楽園
			神原	神原				
実施校数	0	5	8	6	3	2	2	2
放課後 キッズ					平木	平木	平木	平木
					高木北	高木北	高木北	高木北
						神原	神原	神原
						甲陽園	甲陽園	甲陽園
						南甲子園	南甲子園	南甲子園
キッズ実施校数	0	0	0	0	2	5	5	6
居場所実施校数	3	14	20	18	15	14	15	20
全合計	3	14	20	18	17	19	20	26



令和7年度(予定)	
CN 常駐型	安井
	甲東
	小松
	夙川
	北夙川
	深津
	瓦林
	上ヶ原南
	今津
	西宮浜
	上ヶ原
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
	〇〇
〇〇	
実施校数	
放課後 キッズ	平木
	高木北
	神原
	甲陽園
	南甲子園
	香櫨園
〇〇	
〇〇	
〇〇	
実施校数	
全合計	41